

資料 1

令和8年1月19日
富山県立大学

令和8年度富山県立大学大学院情報工学研究科（博士前期課程）入学者選抜 (夏入試)における実施上の誤りへの対応状況について

令和7年8月19日(火)に実施した標記入学者選抜における実施上の誤りに関し、以下のとおり対応しましたので、ご報告します。

入学者選抜上の誤りが、本学の信頼を揺るがすことを肝に銘じ、再発防止に向け、以下の改善策を誠実に実施するとともに、今後も、危機意識をもって業務の不断の点検を行い、必要な改善に取り組んでまいります。

1 対象入試の概要

- (1) 入試区分：令和8年度大学院情報工学研究科（博士前期課程）知能ロボット工学専攻入学者選抜（夏入試）
- (2) 受験者数：16人
- (3) 入試の内容：筆記試験、口述試験、英語（外部試験利用）及び面接

2 実施上の誤りの概要

知能ロボット工学専攻の口述試験において、受験者控室を2室設けていたところ、参考図書等の参照の可否について、2つの控室で異なる対応が行われていたことが、受験者の指摘により判明しました。

3 合否判定に係る対応

口述試験に関し、上記誤りの成績への影響が否定できなかったことから、受験者全員を満点とし、事前に受験者に説明の上、合格発表時に本学HPで公表しました。

4 再発防止に向けての対応

- (1) 試験実施体制の再点検の実施 令和7年9月～10月
- (2) 再点検結果を踏まえた当事案の主な要因の分析（知能ロボット工学専攻）
 - ・ 控室の業務に関し明文のマニュアルがなく、受験者が質問等をした場合の対応が各控室の業務従事者の個人判断に依拠する状況となっていたこと。
 - ・ 業務従事者に対する専攻のフォローアップ体制が明文化されていなかったこと。
- (3) 当事案再発防止に向けての改善策（知能ロボット工学専攻）
控室の設営及び業務に関するマニュアルを作成し、その中で「受験者からの質問には即答しない」など具体的な対応例も明記。マニュアルは、日本語が堪能でない教員が業務を担当する場合も想定し、英文・和文併記としました。
- (4) 全学での潜在リスクの洗い出しと対応
今回当事案が発生した知能ロボット工学専攻以外の専攻及び事務局においても、学部入試も含めた業務の再点検を行い、人員配置、時間管理、受験者への指示の明確性、体調不良者が現れた場合など現行体制での潜在リスクを洗い出し、人員体制の見直しやマニュアル改訂など必要な措置を講じました。
- (5) 教職員への注意喚起（令和7年10月）
 - ・ 全教職員に対し、入試・学生募集部長名で注意喚起
 - ・ 入試・学生募集部長から当事案の直接の関係者に注意喚起